大学名	信州大学

第71号 特集テーマ「魅力あふれる大学キャンパスとは」

表題	「知」と「人」を繋ぐ場としての大学図書館 ～ 開かれた「知の拠点」を目指して

キャンパス・地域のイノベーション・コモンズとして

地域に開かれた学びと共創の場としての役割を担う大学図書館。学生はもとより、地域住民にも身近な存在として利用されている。学習環境の整備を進めながら、「信州大学から地域、世界へとつながる学びの提供」を目指し、多様な主体が集まる知の創出の拠点として、新たな取り組みを進めている。

各キャンパスに展開する図書館の機能強化

本学は5つのキャンパスに6つの図書館を設置し、展示やセミナー、ガイダンス等、各館それぞれの専門性や地域性を活かしながら、新たな知を紡ぐ場を提供している。環境整備にも注力し、近年では2021年に教育学部、2023年に農学部の図書館をリニューアルした。バリアフリー化、省エネ化を中心に、アクティブラーニングやオンライン学習のためのICT環境を整備して、多様な学習空間を提供し、利用者でにぎわっている。

木材を多用し、快適で明るい雰囲気にリニューアルした農学部図書館

地域と共に学びを豊かにする「信州 知の連携フォーラム」

本学附属図書館では積極的に様々なイベントや地域連携企画を開催している。2016年には長野県立歴史館、長野県立美術館、県立長野図書館と本学が中核となり、地域資源の共有化、新たな知識化・発信により地域住民の学びを豊かにし、地域創生へ繋ぐ場として「信州 知の連携フォーラム」を立ち上げ、以降、年に1回連携イベントを開催してきた。2023年12月には「記憶＜データ＞を未来へ～信州からはじまる文理融合のデジタルアーカイブ」を開催。文理融合の電子資料の共有化と発信の可能性について、地域の方々を交えて活発な意見交換がなされた。

また、教職学協働や地域連携による「知の拠点」づくりとして、現在、学内文化施設を統合する『信州大学ミュージアム』創設の準備を進めている。

12月に開催された「記憶＜データ＞を未来へ～信州からはじまる文理融合のデジタルアーカイブ」の様子。学外からも多くの参加があった。

参考Webサイト　信州大学附属図書館